

ドライブレコーダーを用いた映像活用システムについて

1 概要

ドライブレコーダーを用いた映像活用システム（以下「映像活用システム」という。）は、市内を走行する路線バス、タクシー等（協力事業者）に専用ドライブレコーダーを設置し、災害状況の確認が必要と判断した場合に、京都市消防局の消防指令センターにおいて災害地点付近を走行中の車両のドライブレコーダー映像を確認します。

映像活用システムを使用することで、出動中の消防車等に災害状況を伝達することができ、消防隊等が現場到着前に災害状況を把握することが可能となります。

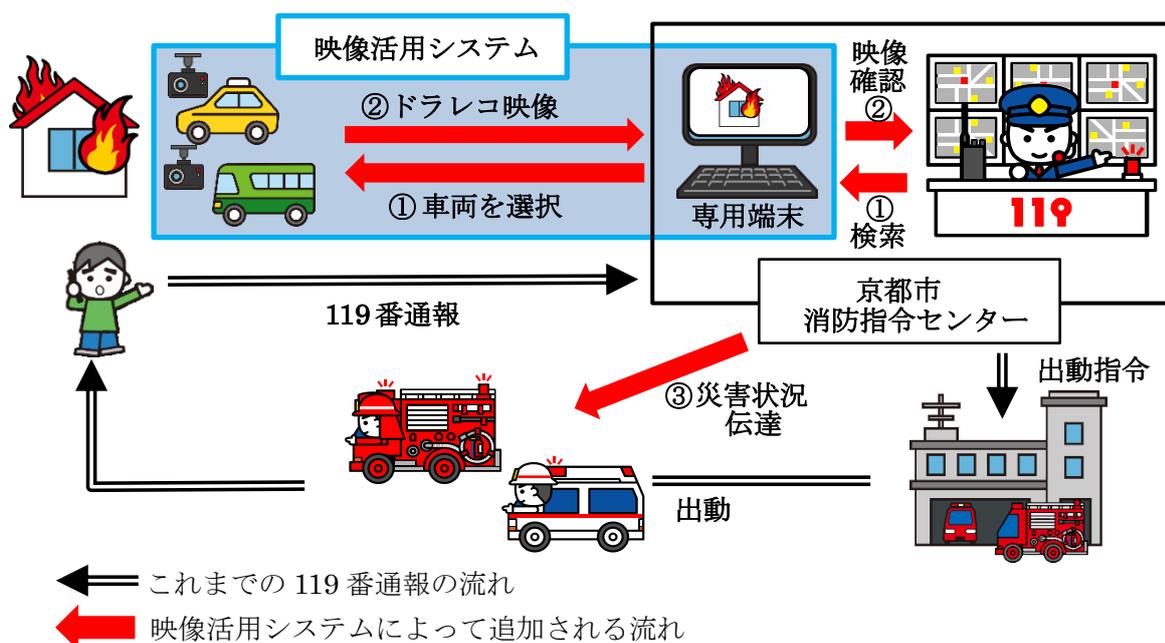
2 実証期間

令和6年12月6日（金）から令和9年3月31日（水）まで

3 システム運用について

(1) 運用方法

- ① 消防指令センター員が119番通報状況から、災害状況の確認が必要と判断した場合に、災害地点付近の車両を検索し、車両を選定する。
- ② 選定した車両のドライブレコーダー映像を確認する。
- ③ 出動途中の消防隊等に消防指令センター員が無線で災害状況を伝達する。



(2) ドライブレコーダー設置数

約500台

※運用開始時は、約200台を想定。

順次増設し、令和7年3月末時点で約500台を予定。

(3) 期待される効果

消防隊等が災害現場到着前に災害状況を確認できるため、以下の効果が期待されます。

ア 適切な部隊の選定

火災規模や交通事故状況から消防隊や救助隊を増隊するなど、消防指令センターが災害状況に応じて、より適切な部隊の選定が可能となり、より早く災害対応ができます。

イ より効果的な消防活動

出動中の消防隊等が早期に消防活動方針を検討し、現場到着後、速やかに消防活動を開始できることから、災害被害を軽減できます。

ウ 消防隊等の現場到着時間の短縮

災害現場周辺に渋滞などが発生していれば、消防指令センターが出動中の消防隊等に渋滞迂回ルートを誘導することで、現場により早く到着することができます。